

■ 年を新たに！～会津の小正月と自然～ ■

鏡餅、しめ縄、門松、おせち料理、お屠蘇(とそ)…などなど。普段は自然や伝統と縁遠く暮らしがちな現代でも、お正月は一年のなかで最も自然のものを利用し感謝して迎える行事ではないでしょうか。

そんな歳神様(としがみさま)などをお迎えする厳かな正月の後に「小正月」という日があります。もともとは正月に忙しかった女性たちも休息し新年を祝う日という意味もあったようです。

会津では「団子さし」といって、冬芽が上を向いている紅いミズキの枝の先に団子をさして鮮やかに飾りつけをします。



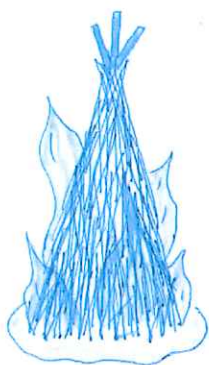
また、小正月には「歳の神」といって円錐状のやぐらのように組んだ木やわらを燃やし一緒に正月かざりなどをお焚き上げして歳神様を天へお送りする行事があります。

(「どんど焼き」「左義長祭」などと呼ぶ地方もあるようです。)

小正月の前後には「初市」などと呼ばれる市が開かれ、起上り小法師などの縁起物、食べ物などの露店がずらりと並び、ここでお焚き上げする縁起物を新調します。

一年の豊穡、繁盛、子孫繁栄を願うのは、人間も他の生き物も同じではないでしょうか。時代に合わせて変わりつつも、今年も近所の人たちと寄り合い自然のかたわらで生きて行こうという人間の生き方を、改めて気づかされる小正月です。

皆さんの地域ではどんな行事がありますか？



■ こんなの見なかった？ ■

裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんでしょう？

探勝路を歩いていると、雪の下から突き出た茶色い棒のようなものがあり、それに恐竜が口を開けたような形をした“何か”がついているのを見かけます。

さて、この“何か”とは何でしょう？

- ①オオウバユリの実
- ②木の枝
- ③ビジターセンターで作った飾り
- ④写真スポットの目印
- ⑤キノコ



正解は、①オオウバユリの実です。山地の湿った場所で生育し、夏には白い花をいくつも咲かせます。花が終ると膨らんで楕円形の実になり、その中に数百もの種を作ります。この時期は、ぱかっと開いた実の中に種がある様子や雪の上に落ちていた種が見られます。



1m を超える雪の中でもその姿を見られるということは、オオウバユリがそれだけ高く育つということで、他の植物と比べても迫力があります。また、開いた実の形は、食虫植物の「ハエトリグサ」のようにも見え、比べてみると形がとてもそっくりで面白いですよ。

雪が深いこの時期は、スノーシューを履いて散策することができます。雪上の散策を楽しみながら、オオウバユリを探してみてください。

※五色沼は自然公園法により特別保護地区に指定されています。採取、持ち帰りは禁止されています。